

令和5年度後学期 授業評価アンケート結果のまとめ

※前学期と同様の設問と方法で実施した。

1. アンケート実施方法

(ア) 評価対象は全授業。

(イ) Web アンケート方式で、一斉送信メールを通じて、および授業の最終回に教員から直接、学生に対して回答を要請する。回答期間が過ぎた時点で回答率が低い学生には、メールで改めて回答依頼をおこなう。

2. アンケートの内容

(ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ10：5：0の10点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100点満点）とする。

(イ) 設問3：授業で身に付いた力。DPに示された6つの共通指標および2つの固有指標に対応する力について、当てはまると思うものを選択する。

(ウ) 設問4：1回の授業あたりの予習・復習に費やした平均的な時間。それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。

3. 解析結果：履修登録人数15名以上、回答数10名以上のもののみを対象とした。対象科目における回答率は64.2%で、昨年度と比較して3.2ポイント増加した。

(ア) 図1には、設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて示した。全体の様子は過去2年の結果とほとんど変わっていないが、項目ごとに全体の平均点を計算すると、いずれも昨年度より若干増加していた。

(イ) 図2には、対象科目すべての総合評価点の分布を示した。こちらも、全体的な様子は過去2年の結果とほとんど変わらない。

(ウ) 図3には、対象科目の設問4に対するすべての回答から、授業1回あたりの平均的な予習復習時間の分布を示した。こちらも全体の様子に大きな変化は無く、十分な授業外学修がおこなわれているとは言い難い状況が続いている。

(エ) 図4には、設問3 授業で身に付いた力7項目に対して選択率の分布を示した。こちらも、全体的に見れば昨年度とほとんど変わらない結果となったが、すべての項目でわずかながら平均選択率が増加していた。

(オ) 全体として、この3年間は前学期、後学期ともにアンケート結果の様子はほとんど変わらない状況が続いている。今後は、令和5年度からの情報学部設置にともなう変化を注視しながら、改善が必要と考えられるところへの新たな対応施策の検討と、得られたデータの学修成果の可視化への活用を進めていきたい。

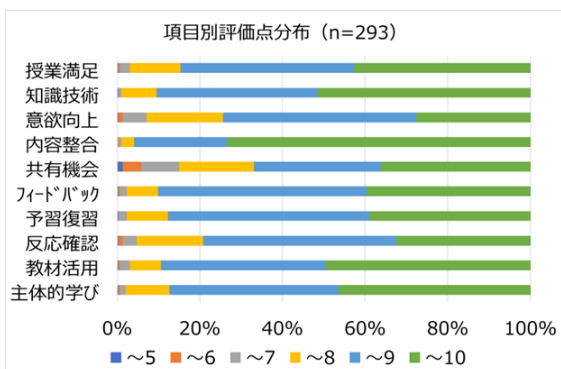


図1 項目別評価点の分布

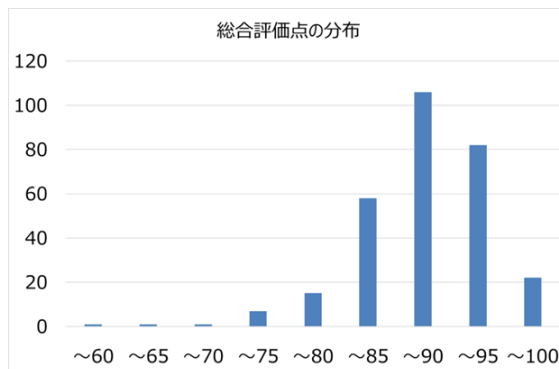


図2 総合評価点の分布

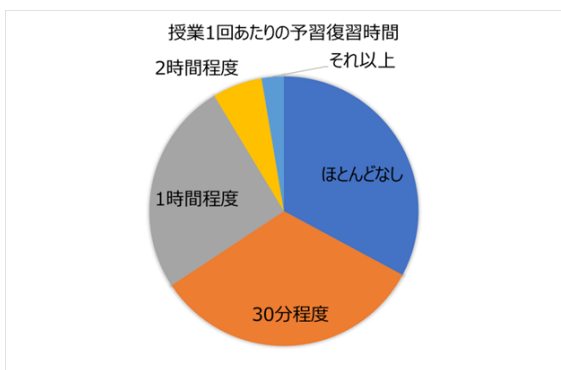


図3 授業1回あたりの学修時間

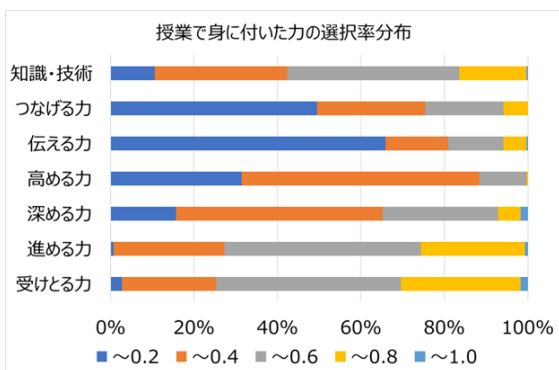


図4 授業で身に付いた力7項目の選択率

表1 アンケートの設問

設問1.	授業方法について
設問(1-1)	学生の主体的な学びや授業への積極的な参加を促す工夫や雰囲気作りがなされていますか
設問(1-2)	教科書、配布資料、視聴覚機器、板書などは効果的に使われて、授業理解に役立っていますか
設問(1-3)	教員は学生の反応を確かめつつ授業を進めていますか
設問(1-4)	予習・復習をおこなうための適切な指示や、課題提示がなされていますか
設問(1-5)	提出した課題やレポート、質問などに対して、適切な説明や指導がおこなわれていますか
設問(1-6)	学生同士が意見交換したり質問などを共有したりする機会や場がありますか
設問2.	授業内容について
設問(2-1)	授業の内容は授業ガイダンス等で事前に説明され理解したものと合っていますか
設問(2-2)	好奇心を刺激したり、意義や必要性を感じさせたりして、学ぶ意欲を高める内容になっていますか
設問(2-3)	この授業の到達目標となっている知識や技能を、しっかり学べる内容になっていますか
設問(2-4)	この授業を受けてよかったと感じていますか
設問3.	この授業であらたに身についたり、レベルアップしたりしたと感ずる能力
設問(3-1)	必要な情報を収集する力
設問(3-2)	学んだ知識や技能を役立てる力
設問(3-3)	興味や関心の範囲を広げる力
設問(3-4)	学びや作業を振り返り改善する力
設問(3-5)	作文やプレゼンテーションなど表現する力
設問(3-6)	他者との対話や協働作業をおこなう力
設問(3-7)	科目に関わる知識や技能